

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： 清 風

報告者： 門脇俊照

実施場所：青森県青森市	実施日：令和元年 10 月 31 日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>過疎に歯止めをかけるヒントを探るため全国過疎問題シンポジウムへ参加した。 開会式後、過疎地域自立活性化に功績が認められた団体の表彰式。 基調講演は東京農業大学教授、木村俊昭先生から「地域創生 成功の方程式 - 『五感六育』事業構想と実現-」を公聴。 パネルディスカッションでは「地域の食・文化・人を育む『農山漁村』を守る～経済を回して維持・発展する仕組みづくり～」を研修。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>地域創生の重要ポイント 1、実学・現場重視の視点 2、全体最適思考 3、民間参加（民で出来ることは民） 地域創生の実践行動の3本柱 1、リーダー・プロデューサー人材塾の開塾 2、「五感六育」事業構想と実現 3、仕事の整理・仕事構想の改善 六育は知育・木育・食育・遊育・健育・職育 人間関係の構築 自己分析・他者理解・相互理解・相互共感 地域を変えるチカラとは何か 1、ミッション（社会貢献） 2、ビジョン（共通価値） 3、バリュー（分かち合い） 4、コンテンツ（中身） 5、プロセス（ストーリー・物語）</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>パネルディスカッションでは地域の食・文化・人を育む「農山漁村」を守る。 コーディネーター 関司直也 法政大学現代福祉学部教授 パネリスト 玉沖仁美 株式会社 紡 代表取締役 小松圭子 有限会社 はたやま夢楽 代表取締役社長 高橋哲史 株式会社 百姓堂本舗 代表取締役 根市大樹 合同会社 南部どき 代表社員 経済を回して維持・発展する仕組みを研修。</p> <p>地域の維持発展には強いリーダーシップを持った人が必要。 どこで研修しても同じような内容だが、なぜ庄原市ではできないのか答えが未だ見つからない。</p>	

令和元年 11 月 5 日

調 査・研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名： 清 風

報告者： 門脇俊照

実施場所：青森県むつ市脇野沢地区	実施日：令和元年 11 月 1 日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 地域の活性化のヒントを探す研修に参加した。 青森県むつ市脇野沢地区 今回のシンポジウムで全国過疎地域自立促進連盟会長賞を受賞された団体を視察研修。	
■参考とすべき事項 むつ市脇野沢地区はむつ市でも特に人口減少と高齢化率が高い地域で少子高齢・過疎が進む中、地域住民の憩いの場であった「脇野沢温泉」が源泉の枯渇や整備の故障により休業状態となり、地域コミュニティの活力低下や地域の愛着の薄れなどが同地区の課題となっていた。 地域の将来に危機感を持った住民が「脇野沢温泉」を「コミュニティセンター」として立て直しを図ることにした。 立て直しにはインターンシップの大学生なども加わり、温泉再開に向け住民の意見を反映させるため 1 年間で 16 回のワークショップを経て同温泉を復活させた。 ワークショップに参加した住民で結成された「わきのさわ温泉湯好会」が集落支援員と温泉の運営をサポートしながら住み慣れた地域で稼ぎ、暮らし続けていける新たな仕組みを構築し地域を盛り上げる様々な活動を行っている。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） 定例会では、利用者の意見や要望を共有し、改善策を検討し「住民の声が形になる温泉」として魅力化に努め湯好会の半数が認知症サポーター養成講座を受け、会が認知症サポート団体に認定されている。 湯好会の取り組みは、地域資源を活かして地域住民が一体となって拠点を作り上げ、住民の地域愛を醸成し、温かな憩いの場を再生している。 今回の事例は中心的な活動を担っている地域支援員の力が大きく、加えて行政が積極的に支援員をサポートし出来た地域おこしだと思った。	

令和元年 11 月 5 日

調 査・研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名： 清 風

報告者： 竹 内 光 義

実施場所：全国過疎問題市民ホール全体会場	実施日：令和元年 10 月 31 日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <ul style="list-style-type: none">・全国過疎問題シンポジウム 2019in あおもりで、木村俊昭先生の基調講演があった。地域を変える【チカラ】は、自分の住み暮らす町を十分に理解しているか。地域が輝きを取り戻すには、まずは自らが知り気づき実践行動し、知識を知恵として、お互いに輝くこと、情熱を持ち（できない）を（できる）に変えて構想実現する人を孤立させないこと、産学官連携でさまざまな人が結びつくことが重要である。	
<p>■参考とすべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・日本の地域の現状は、人口減少、基幹産業の衰退や高齢化の進展などによって、住み暮らす人々のやる気やモチベーションが低下して町の底力が弱体化している。直ちにその状態から脱却することは容易ではないが、大切なのは地元へ愛着心を持ち五感・感動・四季の分析を経てから基幹産業（付加価値額の業種ランキング）の現場を歩き現況を直ちにヒアリングで確認することである。	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <ul style="list-style-type: none">・あなたの町・地域は、どの分野の何をどこまで明らかにし、どこから次世代に託すのか、どのような進化を目指すのかをよく考えて、真のパートナーブレンとともに常に実践行動をすることが重要である。	

令和元年 11 月 5 日

調 査・研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名： 清 風

報告者： 竹 内 光 義

実施場所：全国過疎問題・むつ市分科会の会場	実施日：令和元年 11 月 1 日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） ・過疎地域自立活性化優良事例発表団体で、むつ市の脇野沢温泉湯好会が表彰された。過疎地域のさまざま取り組みについて、参加者相互の交流を図るために参加した。現地取り組み紹介では、脇野沢地域交流センターで改修された温泉施設の管理運営を市が委託する集落支援員と協力し、日々の施設管理・運営を行っている。現地視察として、土づくりからこだわった本州最北端のサンマモルワイナリー・海軍大湊要港部庁舎をイメージした北の防人大湊安渡館で海軍カレーを堪能した。最後に下北名産グルメ直売所を視察した。	
■参考とすべき事項 ・どこの施設も、観光客等・外部からの来館者獲得を目指して団体独自の企画や商品開発等を計画しており、むつ市が指定管理者制度の導入を検討していることから、その受け皿となるべく組織の強化を目指している。また、温泉の設備故障等により平成 27 年 9 月より休業状態が続いていたが、地方創生拠点整備交付金を活用して改修し、生きがいくくり等・地域住民自らが活動し、住み慣れた地域で暮らす施設として平成 30 年 4 月にリニューアルオープンした。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） ・多くの過疎地域では、全国に比して著しく人口減少や高齢化社会が進行しており、地域活力の低下や生活環境の整備について格差が見られ、依然として厳しい状況にある。しかし、近年、田園回帰の動きを始め、地域間交流の拡大、情報通信網の発達・価値観の多様化等・過疎地域を取り巻く環境は大きく変化している。こうした中で本市も、地域の自立と風格の醸成を目指して創意工夫により、過疎地域の活性化を重要課題として、しっかりと頑張ってもらいたい。	

調 査 ・ 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名： 清 風

報告者：赤木忠徳

実施場所： 全国過疎問題シンポジウム 2019in あおもり 基調講演 地域創生 成功の方程式 木村俊昭	実施日： 令和元年 10 月 31 日
<p>■ 目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状など）</p> <p>全国の過疎での素晴らしい実例を探りに、過疎問題シンポジウムに参加した。木村俊昭氏の基調講演では地域創生成功の方程式と題して実践的な取り組みの紹介があった。皆さんは本当に自分の住み暮らすまちを十分に理解しているのだろうか。全国各地を回ると、「私のまちには特徴あるものが何にもない、ほかのまちと変わらない」という声をよく聞く。実に残念に感じるが多々あるが、私の視点から見ると、こんなにすばらしい、誇りを持てる、とてもすてきな宝もの「ひと、こと、もの」があると感じる。何故か！人口減少、基幹産業衰退や高齢化の進展により、やる気やモチベーションが低下していて、まちの底力が弱体化している。直ちに、その状態から脱却することは容易ではない。</p>	
<p>■ 参考とすべき事項</p> <p>地元に着心を持ち「五感（感動・四季）分析」を経てから、付加価値額の業種ランキングの基幹産業の現場を歩き現状をヒアリングで確認すること。これまで、基幹産業だと思っていた産業以外に金額ベースでは、介護関連事業などが上位にいるなど、時代の変化を数字で捉えていない地域が多い。まず、地元の産業構造の現状を知るべきであろう。そして「知育・食育・木育・遊育・健育・職育の六育のタイミング、スピード、パワーやバランスを踏まえ、事業構想をパートナー・ブレインとともに、指標（ものさし）を持ち、自分たちの力でできる「ひと育て」「まち育て」を実現することだ。</p>	
<p>■ 提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>①実学・現場主義②全体的思考力③ストーリー戦略を実践し得る人材の養成と定着が地域創生には欠かせない。 人材を育むには ① 順番（重要性和緊急性、現状に疑問を持つ）②視点（固定観念を変える）③希少性のあるストーリー（物語）が重要で、人材養成プログラムに組み込む必要がある。 地域が輝きを取り戻すには、まず、自らが知り気づき実践行動し、知識を知恵として、お互いに耀くこと、情熱を持ち、「できない」を「できる」に変え、構想実現するひとを孤立させないで、産学官金公民のさまざまなひとが結びつくことだ。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調 査 ・ 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名： 清 風

報告者：赤木忠徳

実施場所： 全国過疎問題シンポジウム 2019 in あおもり 基調講演 地域創生 成功の方程式 木村俊昭	実施日： 令和元年 10 月 31 日
<p>■ 目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状など）</p> <p>全国の過疎での素晴らしい実例を探りに、過疎問題シンポジウムに参加した。木村俊昭氏の基調講演では地域創生成功の方程式と題して実践的な取り組みの紹介があった。皆さんは本当に自分の住み暮らすまちを十分に理解しているのだろうか。全国各地を回ると、「私のまちには特徴あるものが何にもない、ほかのまちと変わらない」という声をよく聞く。実に残念に感じるが多々あるが、私の視点から見ると、こんなにすばらしい、誇りを持てる、とてもすてきな宝もの「ひと、こと、もの」があると感じる。何故か！人口減少、基幹産業衰退や高齢化の進展により、やる気やモチベーションが低下していて、まちの底力が弱体化している。直ちに、その状態から脱却することは容易ではない。</p>	
<p>■ 参考とすべき事項</p> <p>地元に着心を持ち「五感（感動・四季）分析」を経てから、付加価値額の業種ランキングの基幹産業の現場を歩き現状をヒアリングで確認すること。これまで、基幹産業だと思っていた産業以外に金額ベースでは、介護関連事業などが上位にいるなど、時代の変化を数字で捉えていない地域が多い。まず、地元の産業構造の現状を知るべきであろう。そして「知育・食育・木育・遊育・健育・職育の六育のタイミング、スピード、パワーやバランスを踏まえ、事業構想をパートナー・ブレインとともに、指標（ものさし）を持ち、自分たちの力でできる「ひと育て」「まち育て」を実現することだ。</p>	
<p>■ 提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>①実学・現場主義②全体的思考力③ストーリー戦略を実践し得る人材の養成と定着が地域創生には欠かせない。 人材を育むには ① 順番（重要性和緊急性、現状に疑問を持つ）②視点（固定観念を変える）③希少性のあるストーリー（物語）が重要で、人材養成プログラムに組み込む必要がある。 地域が輝きを取り戻すには、まず、自らが知り気づき実践行動し、知識を知恵として、お互いに耀くこと、情熱を持ち、「できない」を「できる」に変え、構想実現するひとを孤立させないで、産学官金公民のさまざまなひとが結びつくことだ。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。